

全国協議会 ニュース

2023年7月1日発行 第371号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

全国協議会 2023 年度通常総会開催

5月28日(日)に2023年度全国骨髄バンク推進連絡協議会通常総会が開催されました。2022年度の事業報告及び決算・監査報告、2023年度の事業計画及び予算が議決されました。また、今年は現役員任期満了の年に当たり新役員が選任されました。

《2022 年度事業報告》

2022年度もコロナ禍が収まらない中での普及啓発活動やドナー登録推進活動となりました。そうした中であっても、全国各地の活動により新たに34,507人の方々にドナー登録いただいた一方で、骨髄バンクを介した移植数は1,055件と減少傾向となっています。

2023年2月には骨髄バンク・さい帯血バンクを介した移植件数累計が5万例に達し、2月12日(日)に名古屋国際会議場で開催された日本造血・免疫細胞療法学会総会の市民公開講座で5万例達成記念イベントを学会と共に開催しました。

骨髄バンクは30数年が経過し移植者生存率は向上し、QOLも向上してきている中で、患者さんの中にはドナーさんに感謝を伝えたいのに伝えら

れないとの悩みを吐露している人もいらっしゃることから、2022年6月7日(火)に衆議院第一議員会館で開催された骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会において患者さんの感謝の思いを伝える機会の再検討を提言しました。

全国協議会は東京マラソン2020から寄付先団体になっていますが、東京マラソン2023では今までコロナ禍で出来なかった沿道応援や個別ラウンジでの接待を初めて行い、チャリティランナーの方に直接感謝を伝えるとともに、全国に向けて骨髄バンクの啓発を行うことができました。

また、事業共催制度を創設し各地団体のチャリティーコンサート、医療講演会などの開催を支援しました。

2022年5月28日(土)にWeb開催された「2022全国骨髄バンクボランティアの集い」では、ドナーを1年

以上探し続けている男の子の父が参加し、現状の問題点を提起し、ドナー登録を呼びかけました。視聴した方からは患者ご家族の生の声をお聞きし、誰一人取り残さないと心を新たにする機会になったとの声がありました。

《2023 年度事業計画》

移植医療に不可欠な骨髄ドナーの確保はボランティアの方々の努力によって成り立っていることを周知し、全国各地のボランティア団体と結束しすべての患者さんの救命とQOLの向上を目指す活動やドナー登録活動を進めるとともに、患者負担金軽減を求める活動や、ドナー休暇制度導入の働きかけなどによりドナーが提供しやすい環境を整備するなど、より良い骨髄バンクと造血幹細胞移植医療を求める活動を進めていきます。

2022年度と同様に1. ドナー登録推進と普及啓発活動、2. 患者・家族の支援活動、3. ドナー支援活動、4. 骨髄バンク及び医療体制の充実、について財政改善を図りながら活動をしてまいります。2023年度もよろしく願いいたします。(詳しくはホームページをご覧ください)

決算および予算の概要

経常収益 単位：千円

科目	2022年度決算額	2023年度予算額
会費収入	336	336
賛助会費	2,171	2,200
寄付金	17,669	15,000
募金箱	17,848	15,500
販売収入	1,505	2,500
その他	1,565	169
収入合計	41,094	35,705

経常費用 単位：千円

科目	2022年度決算額	2023年度予算額
患者支援金	7,101	9,000
行事費	3,424	5,900
製作・印刷費	1,609	3,380
交通・通信費	2,436	3,900
人件費	14,092	14,365
家賃・水道光熱費	3,141	3,243
事務費・他	5,844	4,887
支出合計	37,647	44,675

収支差額	3,447	▲ 8,970
次年度繰越金	119,456	110,486
(うち基金)	(83,315)	(70,530)

役員名簿 (任期 2023年7月~2025年6月)

役職	氏名
会長	仲田順和
副会長	大谷貴子
副会長	渋谷俊徳
副会長	田中重勝
理事長	梅田正造
副理事長	村上忠雄
副理事長	山村詔一郎
副理事長	若木 換
副理事長	浅野祐子
理事	齊藤千秋
理事	佐藤民雄
理事	館野守男
理事	鈴木敏生
理事	山口明大
理事	中村福代
理事	北折健次郎
理事	川下 勉
理事	山崎裕一
監事	笠原慶一
監事	黒部光司

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(5月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2023年5月末現在)

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,358	2,772	545,870	928,096
患者登録者数	191	179	1,712	66,702
採取数	骨髄	60	68	25,870
	末梢血幹細胞	29	28	1,900
	合計	89	96	27,770

■5月の区別ドナー登録者数
献血ルーム/593人、献血併行型集団登録会/2,127人、集団登録会/3人、その他/49人

■5月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 4,365人/20代 88,622人/30代 135,510人
40代 216,051人/50代 101,322人

■5月の20歳未満の登録者 485人

■5月までの末梢血幹細胞採取累計数：
1,847件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

骨髓・さい帯血バンク議員連盟総会開催 野田聖子会長 29年間のご支援、本当にありがとうございました

5月31日(水)衆議院第一議員会館で「骨髓・さい帯血バンク議員連盟総会」が開催されました。最初に、野田聖子会長の退任挨拶(要旨・下記)があり、新会長に笹川博義衆議院議員、事務局長に自見はなこ参議院議員が選出されました。次いで関係団体からのヒヤリングが行われ、日本骨髓バンクはじめ7団体から報告と要望がありました。全国協議会は田中重勝理事長が「持続する骨髓バンクを目指して」と題して、ドナー登録のオンライン化、スワブ検査導入、コーディネート迅速化、患者負担の軽減、患者さんの思いと共感の実現について提言しました。

今総会でのトピックスは、全国協議会、日本骨髓バンク、日本造血・免疫細胞療法学会、NPO血液情報広場・つばさの4団体からドナー登録オンライン化、スワブ検査導入が相次いで要望され、参加議員からも、国会質問を予定していた事項であり議員連盟としてまとまって応援すると発言がありました。それに対し、国(厚生労働省健康局移植医療対策推進室)、日本赤十字社血液事業本部からの説明がありました。

野田聖子会長の挨拶(要旨)

本日をもって、本議員連盟の会長を退任いたします。多くの皆様からのご理解により骨髓バンク、さい帯血バン

クが発展しておりますことに心から感謝申し上げます。本議員連盟は1994年の発足ですので、29年間の年月を経過したことになります。私が骨髓バンク支援活動を行うことになった契機は、今日も参加されている大谷貴子さんとの出会いからです。最初の衆議院選挙に落選した時でしたが、大谷さんに「国会議員は(要望すると)何時も分かったと言っても誰も何もしてくれない。だから議員は信用できない。野田さんはやってくれるんでしょね、国会議員になったら必ず取り組むと約束して」と言われたのです。1993年の総選挙で初当選し、私は約束どおり翌年の1994年に「骨髓バンクを応援する若手国会議員の会」を設立しました。国会は長老議員が力を持つのが慣例ですが、会員は自らがドナー登録し骨髓バンクを応援するための活動をするため、50歳以下の年齢制限とし、患者さんを救うために与野党を問わず超党派の議員連盟としました。会員には、浜田靖一さんと後にドナーになった小此木八郎さん、そしてかなり個性的な方々、河村たかしさん(現名古屋市長)なども参加され、侃々諤々の議論と活動を行ってきました。骨髓移植に加えてさい帯血移植も進歩し、小児や若い人だけでなく高齢者にも拡大するなど大きく発展してきました。2012



野田会長へ全国協議会大谷副会長から花束贈呈
年には関係者の皆様のご支援により骨髓バンク、さい帯血バンクの法律も成立し、2017年には会員の年齢制限を外し、より多くの方々を新たに迎えた議員連盟として再発足し、今日に至っております。

私も国会議員となって30年が経ち、議員連盟の会長としても29年と永きになりました。長くなるとどうしても独裁になりますし、どんな組織も世代交代が必要です。そうした思いから退任を決意いたしました。後任の新会長としては、笹川博義さんをお願いしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。最後に、関係者の皆様、色々な立場があるかと思いますが、是非とも仲良くして事業の発展にご尽力くださいますようお願い申し上げます。今後は顧問として応援してまいります。以上、退任のご挨拶といたします。

2023 全国骨髓バンクボランティアの集い開催



2023 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京は5月27日(土)Zoom ウェビナーで「なぜ会えないの? 感謝の気持ちを伝えたい!」をテーマに開催され、第一部は映画「いちばん逢いたいひと」のプロデューサーで、骨髓バンクを介した移植を受けた娘さんを持

つ患者家族でご自身はドナー経験者でもある堀ともこさんと、歌手で日本骨髓バンクの普及大使である山本雅也さんのお二人が登壇され、映画の製作エピソードを通して、ドナー啓発活動と対面についてお話いただきました。

堀さんは患者とドナーは会ってはいけないと知ってはいるが、娘のドナーには直接お礼は言いたいというお気持ちをお持ちです。「患者を代表して『ありがとうと言いたい』その思いから映画を作成した」と言う言葉が心に残りました。しかしドナーとしては提供した患者さんに会うのは躊躇、それは患

者さんが元気でいてくれるかどうか分からないからです。手紙のやりとりが2年以内に2回に制限されていることに疑問を感じ、節目節目に手紙のやり取りをしたいと思っています。

山本さんは「もし提供していたなら、患者とドナーはいつまでも繋がっていきたくので、会ってみたいと思っています」と話されました。

第二部は堀さん司会のもと「患者さん・患者家族・ドナーが思う対面について」と題し、元患者の大竹文さん・川下勉さん、患者家族の上田三重さん、骨髓提供ドナーの梅原保さん・松井一矢さんが登壇されました。

(3 面下部へ続く)

全国協議会 新旧理事長挨拶

理事長就任挨拶



新理事長
梅田正造

7月1日付で新理事長に就任しました梅田正造です。

これまで副理事長として3期6年間、事務局所管、東京マラソン、ホームページ (HP)、協議会ニュース等を担当して、規則・マニュアルの整備、東京マラソンの寄付先団体としての採

用実現、HPの全面改訂、ニュースの編集を行ってきました。これからは理事長として田中前理事長の多くの業績を引継ぐとともに、各地の正会員、団体との交流を更に深め、献血併行型登録会支援にも力を入れて参りますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長退任にあたり

6月末日をもって理事長を退任させていただきますが、これまで副理事長4年、理事長6年と10年間にわたり、各地ボランティアの皆様のご支援を



前理事長
田中重勝

いただくなかで、全国協議会の推進役を務めさせていただきました。10年の節目とはいえ、各地の皆様には十分お応えできるものではなかったと振り返っています。急速に変化している社会に対応していくには、世代交代をしながら進むべきと思っていますので、バトンを受けていただいた梅田さんを皆さんとともに盛り上げてまいりたいと思います。

加盟団体情報交換会

5月28日(日)、新橋航空会館で12時から14時の2時間、加盟団体情報交換会が開催されました。まず14団体が会場、Zoomで参加して順番に各地の活動報告や全国協議会等に対する要望、課題などを述べ、その後副会長、理事等役員も参加して活発な意見交換をしました。

各地の参考になる良い事例は、是非とも他地区で参考としていただきたいと思います。また全国協議会等に対する要望、課題につきましては、対応を検討して参ります。

紙面の都合で加盟団体からの発言の内、他団体の参考になりそうな事項、

要望、課題のみをまとめます。
◆組織が高齢化し、入会者が減って各支部の活動も活発でなくなった◆他団体の新規会員勧誘の手法を参考にしたい◆コロナでイベント全滅◆仕事があるのでボランティア活動が土日限定になる◆県とボランティアの仕事のすみ分けが課題◆木更津の女の子は移植を受け元気になった(感謝)◆コンサートと落語会、いのちの輝き展、ケア帽子作成と寄贈等活発に活動◆県主催初の説明員研修会を開催◆ドナー助成制度導入率100%達成◆保健文化賞を受賞し、天皇・皇后両陛下に拝謁した◆献血の予約制度は声を掛けられず説明

機会を失う◆献血ルームの職員が協力的、予約者への声がけもOK◆普及啓発活動は充実、骨髄バンククイズが有効◆ひまわりの種を小中学校生に配布→命のリレー◆若年層(看護学生等)を動かすことに注力◆骨髄バンク事業は行政が主体、当会は手伝い◆45歳以下を対象に登録会をしている◆説明員不足が課題◆会員数が少なくなった。協議会でもボランティア会員獲得の問題に取り組んで欲しい◆年1回映画会を開催し、活動資金を確保◆行政に説明員を置く提案があった◆県内にいる説明員の情報、説明員の更新状況を日本骨髄バンクが提供してくれないため、献血併行型登録会への説明員の効率的調整に苦慮している

(2面からの続き)

大竹さんと梅原さんは提供を受けた・提供をしたペアで、移植後お互いが探しあった結果2009年に対面を果たしました。当時は移植件数が少なく、大竹さんが骨髄移植の本を出版されていて特定しやすかったという事情がありました。対面後も家族・親戚ぐるみで交流があるそうで、健全な対面が出来たと思えました。

上田さんは当時10歳だった息子さん骨髄提供を受けました。対面に関しては、希望されている方は会えたらいいなと思うが、息子さんはまだまだ病気に対する心の整理ができていないので今はドナーと会いたいと思えてい

ないそうです。
川下さんはドナーが入院した病院がわかっていたので、家族旅行の際その病院の血液内科を訪れドナーを探し当てたかったが、夜遅かったので正門で家族そろってお辞儀をしたというエピソードが話されました。ただドナーに会いたいかと言われると微妙で、治療が落ち着いた移植10年以降に3回目の手紙が出せればいいなと思っているそうです。

松井さんは「会いたいと希望する方は会えばいいと思うが、治療が100%ではないので患者さんの予後がわからないという切実な事情がある。

患者さんの思う理想のドナーでありたい」と話され、堀さんも同意しておられました。

対面に対し、直接会ってお礼を言いたい気持ち、会わずに心の中でお礼を言いたい気持ち等のお考えをそれぞれの立場でお話しいただき、様々な意見があることを理解できた大会でした。



各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

神奈川

第28回円覚寺チャリティーコンサート開催

6月10日(土)北鎌倉の円覚寺方で骨髄バンクチャリティーコンサート「ピアノ三重奏の夕べ」を開催しました。ちょうど紫陽花が見ごろで、心配していた天気も雨に降られず沢山の方にお楽しみいただきました。

このコンサートは演奏者の友人が白

血病を発病されたことがきっかけで「人と人を繋ぐ骨髄バンクのために私たちにできることは演奏すること」と申し出て下さったのが始まりでした。会場は円覚寺の協力を得て1992年の第1回から27回の会を重ね、今年4年ぶりに第28回を開催することができました。

来場者の方々から「方丈で聞く演奏は格別」、「毎年楽しみにしているのもまた来られて嬉しい」、「お隣の席の病気を完治された方が、『ここへ来ると安心して落ち着く』、『来られたことが嬉しい』と笑顔で話され、このコン

サートはグリーンケアにもなっているのだなと思いました」等嬉しいお言葉をいただきました。

いろいろな思いでご来場いただいた皆様や演奏者、全ての関係者に感謝し、また来年もお変わりなくお会いできますように。

(神奈川骨髄移植を考える会 小野里秀美)



東京

板橋ふれあい祭りに参加して



骨髄バンクを支える友の会は板橋区内を中心に活動をしています。コロナ禍の中で活動を休止していましたが、6月11日(日)に、誰もがこの板橋で豊かに生きていくために「つながりと支えあいを！」をテーマにした第41回板橋ふれあい祭りのイベントに久々に参加しPR活動を行いました。

会場には、ショッピングモール、ふれあいステージ、体験コーナーなどが並び、友の会は骨髄バンクとして“じゃんけんゲーム”でブースに参加しました。小雨が時折降ってはいたものの、参加者は学生ボランティアさんとのじゃんけんに真剣そのもの。勝つまでじゃんけんをし、景品とキティちゃんティッシュをもらい、小雨の中沢山の笑顔が咲きました。

また、坂本健板橋区長も立ち寄り、私たちボランティアを励ましてくださいました。

今後もしさやかではあります、PR活動を続けていきたいと思っています。

(東京・板橋：

骨髄バンクを支える友の会 橋文字)

宮城

石巻での骨髄バンク活動31年目

平成4年まさか自分の次男の哲史(さとし：さっと)が白血病で骨髄移植でしか助からないと宣告されるとは夢にも思わず始めた骨髄バンクの活動。

平成4年11月15日に石巻で会を発足し、活動1周年記念のシンポジウムを行なっている頃、さっとは病院で大変な時期を迎えていました。残念ながら平成5年12月11日に天国へ。さっとに見つけてやれなかったドナーさん、一人でも多くの患者さんを助けたいという思いで今日まで活動をしています。

5年、10年、20年そして30年。イオン石巻が出来てから年2回のペースで行なってきた「骨髄バンクいのちの輝き展」もコロナで中止、今年やっと3年ぶりに復活することができ、6

月10日(土)～18日(日)まで開催しました。

「春ちゃんは元気です」「マモのメッセージ」「さっとの笑顔」を展示。初日にNHKテレビ仙台の取材が入り、放映されたこともあって連日展示会場には多くの方が訪れ、見ていただきました。イオンのマネージャーさんから今後いのちの輝き展を応援するとのお言葉をいただきました。

私たちは本当に多くの方々に支えられて活動を行ってきました。今現在の課題を早く解決できるよう取り組んで行きたいと思っています。

(骨髄バンク石巻の会 小野喜代人)



心からのご寄付に感謝申し上げます ●5月21日～6月20日(敬称略)

●一般	●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	現金 48,365円
株式会社ゼロナビ 現金 100,000円	塩谷 泰人 現金 1,000円	株式会社 フクヤ 現金 6,360円
山本 雅也 現金 10,000円	乾野 海人 現金 3,000円	社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 現金 3,550円
株式会社チエノワ情報システムズ 現金 10,000円	本田 真奈美 現金 5,000円	
株式会社カケル 現金 4,000円	●募金箱	●つながる募金 現金 15,303円
須藤 勝巳 現金 5,000円	株式会社 クスリのアオキ 現金 810,463円	●キモチと。 現金 6,240円
匿名 現金 3,966円	株式会社 マルト商事 現金 64,732円	現金 1,081円
匿名 現金 1,000円	株式会社 ナルックス	
大塚 礼子 切手 5,460円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会